

# それでも耳を澄ませば、新時代の鼓動が聞こえてくる

— 時代逆行の暗雲の下で —

小貫雅男

伊藤恵子

「戦争法案」なるものを  
安倍首相は  
「国民の命と平和な暮らしを守り抜くため」だと称して  
平然と黒を白と言いくるめ  
見え透いた嘘で国民を騙す

嘘も百回繰り返せば真実になる  
と豪語した独裁者がいたが  
わが国の首相の口から  
舌先でぺらぺらと言いくるめるあの虚しいフレーズを  
この間、国民は何度繰り返し聞かされただろうか

揚げ句の果てに、安倍政権は9月19日未明  
前代未聞のこの悪法を強行成立させた  
これはまさしく数の暴力による  
主権篡奪の  
クーデターというほかないものであった

しかし、本当の試練は  
これからはじまるのだ

「戦争法」の成立は  
「合法的」かつ、おおっぴらに  
さらなる軍事的既成事実の積み上げを可能にする  
国民の意識を戦争という人間殺し合いの  
残虐極まりない国家的暴力  
国家的凶悪犯罪に次第に馴らし、麻痺させていく  
そして、日本国憲法第九条の非戦・平和の精神からの乖離をはかる  
為政者の魂胆はまさにそこにある

いずれ時が経つにつれて  
「戦争法」の国民的理解は得られる、と嘯き

上から目線で高をくくる  
安倍首相のこのごかしさ  
これは今にはじまったことではない  
彼が生来身につけてきた  
実に根深い本性なのかもしれない

安倍・自民党は  
念願の「戦争法案」が国会を通ると  
9月24日そそくさと衆参両議院総会を開き  
安倍晋三首相（党総裁）の無投票再選を正式に決めた

首相はその直後の記者会見で  
「アベノミクスは第2ステージに移る  
『一億総活躍社会』をめざす」と語り  
強い経済など新たな「三本の矢」を提唱  
「GDP 600兆円の達成を明確な目標に掲げたい」と宣言し  
経済や社会保障に焦点を当てると胸を張った

これまでの「金融緩和」「財政出動」「成長戦略」に代わる  
アベノミクスの「新三本の矢」として  
「希望を生み出す強い経済」  
「夢をつなぐ子育て支援」  
「安心につながる社会保障」を掲げた  
その上で、「一億総活躍社会」をつくるなどと  
威勢のいい旨い話を相変わらず並べ立てる

厳しい批判を浴びた「戦争法」から国民の目をそらし  
あとはこの悪法通りに  
それこそ「合法的」に粛々と既成事実を積み上げていけば  
国民をさらに騙せるという魂胆なのであろうか  
それが透けて見える

来夏の参院選で勝利し  
本丸改憲に突き進む戦略を描く  
だが、そもそもアベノミクスの  
「旧三本の矢」の効果は見え  
「新三本の矢」の実現性も見通せない

アベノミクスの古い三本の矢は  
第1ステージで錆付き  
その検証すらせずに  
こんどは鷹は爪を隠し  
国民騙しの  
何の具体性も根拠もない  
「経済最優先」の大風呂敷を前面に押し広げ  
「一億総活躍社会」だ、「一億総活躍国民会議」の立ち上げだ、と  
国民の尻をたたく

対米英鬼畜本土決戦と煽った  
かつての軍部のあの狭隘で狂気じみた  
「一億総火の玉」の精神主義とどこが違うというのであろうか

窮すれば正気を失うとは  
まさにこのことか  
いずれ遅かれ早かれ  
鷹の本性は  
むき出しになる

騙されても  
騙されても  
それでもまた繰り返し騙される  
人々はそんな不甲斐なさに  
打ちひしがれ  
どうしようもない  
無力感に陥っていく

私たちはこんなことを繰り返していて  
本当にいいのであろうか

そうこうしているうちに  
主権者であるはずの民衆は  
未来への確かな展望すら持つことなく  
またそれを自ら探る気力さえ失い  
そのままズルズルと  
後退に後退を重ねていく

どこまでも繰り返される  
この陰湿で執拗なボディー・ブロー  
気づかぬままに  
人間社会固有のあるべき体力は  
すっかり衰弱し  
体質そのものまでもが劣化していく

恐るべきこの社会的病魔に  
本当に気づくことがなければ  
民衆自らの手による  
地域再生への機会はますます遠ざけられ  
永遠に忘却の彼方に  
葬り去られてしまうであろう

底知れぬ  
深い闇に沈む  
閉塞の時代  
私たちはあまりにも目先の瑣事  
その場凌ぎの処方箋に惑わされ  
そこから一歩も抜け出せずにいるのではないのか

しかし、それでもなお人間は  
明日への新たな生きる道を求め  
ことの核心に迫ろうとする

大地から遊離した  
虚構と欺瞞の世界  
つまり人間の欲望を  
際限なく肥大化してやまない資本主義  
なかんづく  
人間の虚弱化と野性の喪失へと追い遣る  
高度現代工業・情報化社会  
これら欺瞞の巨大虚構の廃墟の中から  
何とか立ち上がり  
新たな価値を見出そうとする

甦る大地の記憶  
心ひたす未来への予感

人々は  
今や未知なる世界となった  
田園の牧歌的情景への憧憬と  
新たな理想への夢をつのらせ  
今なお諦めずに  
その思いを秘かに抱き続けている

じっと静かに耳を澄ませば  
世の不条理に対する異議申し立ての新たなうねりが  
そして新時代の鼓動が  
幽かながらも  
確実に  
聞こえてくるではないか

いま私たちにもっとも欠けているものは  
もともとあったはずの  
人間の素朴さであり  
確かな意志を持って  
遠い不確かな未来へ挑む  
精神なのではないのか

私たちの行く道は  
特定少数の為政者から  
上から目線で  
与えられるものでは決してない  
「選挙」に矮小化された  
「お任せ民主主義」によって得られるものでもない

私たちの生きる道は  
私たち自身の頭で考え  
私たち自らの手で切り拓く  
まさにこれこそが  
まことの民主主義、草の根の民主主義の原点であり核心なのである

忘れてはならない  
これこそが  
私たち人類の先達たちが  
幾多の苦闘の歴史の中からかちとり

日本国憲法前文が高らかに謳った  
主権在民の真髓ではなかったのか

まさにこの真髓を顛倒させる  
いかなる試みであれ  
いかなる政権であろうとも  
ひと時は  
人々を騙すことができたとしても  
いずれ民衆の厳しい批判と反撃に晒され  
そのたくらみは  
必ずや挫折するであろう

2015年10月10日

〒522-0321 滋賀県犬上郡多賀町大君ヶ畑<sup>おじがはた</sup>452番地

里山研究庵Nomad

TEL&FAX : 0749-47-1920

E-mail : onuki@satoken-nomad.com

<http://www.satoken-nomad.com/>

※ 下記の小文および拙著を併せお読みいただければ幸いです。

- ・小文『**『菜園家族』基調の『自然社会』への展望**<sup>じねん</sup> —資本主義の超克は不可能なのか—』（小貫雅男・伊藤恵子、2015年5月21日、里山研究庵Nomadホームページに掲載、PDFファイル・A4用紙8枚分）
- ・小文『**近代超克の『菜園家族』的平和主義** —いのちの思想を現実の世界へ—』（小貫・伊藤）、『季論21』第30号 2015年秋号（本の泉社、**2015年10月8日発売**）
- ・拙著『**グローバル市場原理に抗する 静かなるレボリューション** —自然循環型共生社会への道—』（小貫・伊藤、御茶の水書房、2013年）